

2025年9月12日

立教大学国際学術研究交流制度
2025年度「派遣研究員」報告書

1. 派遣概要

所属・職	学校・社会教育講座・教授
氏名	中村 百合子
派遣機関名	School of Information Studies, Syracuse University 所在国：米国
研究テーマ	アメリカ合衆国の図書館の最新トレンド（ニューヨーク州シラキュース市を中心に）
派遣期間	2025年8月10日～2025年9月5日（27日間）
研究経費	710,830円

2. 派遣期間中の活動

離日および帰国日を含め、派遣期間中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。
活動内容記入例）〇〇に関する調査、〇〇氏と研究討議、共同研究、講演、視察等

年月日	活動内容
2025年8月10日	離日
2025年8月12日	オノンダガ図書館システム総責任者 Amanda Perrine 氏と面談し、調査協力を依頼。午後、シラキュース大学情報学大学院を訪問し、関係者に受け入れに対する感謝を伝え、訪問研究員としての ID を入手。
2025年8月13日 ～8月14日	フィンガーレイク図書館システム総責任者 Sarah Glogowski 氏および継続教育・アウトリーチ担当司書 Jenny Shonk 氏の協力のもとで、フィンガーレイク地域の小規模の公共図書館3館を訪問し、館長へのインタビューを実施した。並行して、オノンダガ図書館システム傘下の図書館2館にも訪問調査を実施。二館において、図書館委員会（Board of Trustees）の会議を見学した。
2025年8月15日 および9月2日	非営利団体 On Point の活動を見学。組織開発（寄付受入等）責任者の Lynne Pascale 氏、また同団体発足初期からの職員で、現在は経営者の一人である Samuel Rowser 氏にインタビューをし、アメリカの大学進学の実態について意見交換を行った。
2025年8月18日 ～8月24日	オノンダガ中央図書館のプログラムを複数見学し、図書館委員会の会議を見学した。シラキュース大学図書館での文献調査を行い、前の週の調査の整理を行った。
2025年8月25日	オノンダガ郡、また同郡に隣接するマディソン郡、そしてフィンガー

～8月29日, 9月2日, 3日	レイクス地域の公共図書館を合計22館, 専門図書館を1館, 博物館2館を訪ね, 活動を見学し, 司書や利用者, 連携先団体の関係者にインタビューを行った。
2025年9月1日	シラキュースのサウスサイド地区で長年, Light a Candle for Literacy というリテラシー教育の民間活動を行っている Susan I. Woo 氏と Cheryl Bellamy 氏にインタビューを実施した。
2025年9月5日	帰国

3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果、今後の研究の展望、本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等を記入してください。

(1) 具体的な研究・交流の内容および成果

「2. 派遣期間中の活動」に記載した図書館や非営利団体での調査の他、今回の訪問地域で合計3館の博物館や、開催していたニューヨーク・ステート・フェアを訪ね、調査対象地域の歴史や文化等に関する理解を助け、深めた。今回の調査は、2022年秋から2023年夏にかけての在外研究時の調査のフォローアップを意図したものであったが、新たに訪ねることのできた図書館のみならず、2～3年前に訪ねた図書館でも多くの新しい発見があった。在外研究時には気づいていなかったが、パンデミックの直後であり、そのトラウマが社会に残っていたことを、今回の再訪で改めて実感した。特に、ハンズオンで人々が活動するメーカースペースはパンデミック直後は休止状態に近いところが多かったが、今回の訪問では活発な利用が確認できた。また、主として家族ではじめて大学に進学する学生への進学支援を行っている非営利団体の On Point では、高校生の大学進学への動向把握に有用な貴重なお話を二度の訪問でうかがうことができた。

(2) 今後の研究の展望

過去の調査と今回の調査を総括し、一冊の書籍に一年以内にまとめる。アメリカの図書館の現状を概観できる一冊にする予定。

(3) 本学と派遣機関との研究交流にかかる成果、展望等

「2. 派遣期間中の活動」には記載しなかったが、シラキュース大学関係者と多くの対面交流の機会を得た。具体的には、Carsten Oesterlund 教授（同大学情報学部副部長（研究担当））、Jill Hurst-Wahl 名誉教授、同大学名誉図書館長 David H. Stam 氏（故人）の御内室 Deirdre Stam 元ロングアイランド大学准教授、また同大学院修了の Mary Grace Flaherty ノースカロライナ大学チャペルヒル校名誉教授と研究交流を行った。シラキュース大学の情報学大学院は米国では歴史ある名門校の一つとして知られる。同大学院と図書館情報学の専門課程をもたない立教大学との組織的な交流にはバランスが悪く、現時点でははっきりとした将来展望は見出し難い。ただ、同大学の日本の大学との交流は限定的で、キャンパスやシラキュース市内で日本人を見かけることはほぼないことを鑑みると、沿岸部の日本人留学生の多い大学とは異なる体験がシラキュースでは実現できるだろう。今後、学部レベルでの交流を模索することができるかもしれない。



黒人の多く住む地域の公共図書館 ([Onondaga County Public Library Beauchamp Branch Library](#)) には、シラキュース出身で宇宙飛行士になった女性エプス (Jeanette Epps) 氏についての小さなパネル展示が常設されていた。この地域の子どもたち (特に女子) にとって憧れの存在、大切なロールモデルである。



オノンドガ郡裁判所 (Onondaga County Supreme Court) に付設される法律図書館 ([Onondaga Law Library](#)) は、一般市民に開かれ、訴訟のための資料・情報の収集と活用を支援している。同時に、写真のような、同郡の法律や裁判に関わる古いコレクションも持っている (閉架)。設立は 1849 年。



シラキュース郊外のいわゆる高級住宅街ファイエットビルの公共図書館 ([Fayetteville Free Library](#)) には郡内最大級と言ってだろう、大きなメーカースペース Fab Lab が設置されている。この写真はその部屋の半分か 1/3 程度しか写せていない。2011 年、全米ではじめて公共図書館に設置されたメーカースペースとされる。3D プリンター、レーザー彫刻機マシンや工具等々、多くのツールが用意されており、STEAM の専門性をもつライブラリアンからの支援も受けられる。



シラキュースは、ニューヨーク州の真ん中に位置し、二百年ほど前に、ニューヨークシティ西岸を流れるハドソン川と五大湖の一つのエリー湖をつないだエリー運河の主な中継地点の一つとして発展、繁栄した。現在も同州で人口第 5 番目の都市である。ニューヨークシティとロングアイランドを除く同州の広大なエリアをアップステートニューヨーク (Upstate NY) と人びとは呼ぶが、シラキュースはその中心都市である。ここで毎年夏に州最大のフェア ([The Great New York State Fair](#)) が開かれる。アップステートは農業が盛んで、フェアでは生体展示が中心であり、州のアイデンティティは大都会シティのみにもとづくのではないことがわかる。